

「ウエディング！ ウエディング！」

(多人数ヴァージョン)

前川泰信 作

登場人物

- A ウエディングドレス姿の女 妊婦
 - B ウエディングドレス姿の女
 - C ホワイトスーツの男
 - D 掃除のおばあさん
 - E 黒い帽子にスーツ姿の人物
 - F 黒い帽子にスーツ姿の人物
 - G 黒い帽子にスーツ姿の人物
 - H 下痢の女
 - I アナウンサー
- その他 ラストの登場人物 可能なだけ

- 1 -

ME (宇多田ヒカル『プリズナー・オブ・ラブ』のサビ) 緞帳降り
たまま。音楽が途切れて上手花道に照明。肩から台をかけたアナウン
サーがいる。(または、人物なしで音響でニュースを流すの可)

I 放送の途中ですが、臨時ニュースを申し上げます。今日、午前十
時三十分ごろ、ミズガネ市アスミの「ギヤラクシーホテル」に、
線路を曲がりきれなかったコウセイ急行の下り列車が突っ込みま
した。事故の状況は詳しく分かっておりませんが、乗員乗客に多
数の死傷者が出た模様です。ホテルの損傷も激しく、火災が発生
しており、十階付近から転落するなどホテルの客にも被害が出て
いるとのことです。現在、警察と消防が懸命に救助活動を行って
います。繰り返します。今日、午前十時三十分ごろ…。

花道の照明消えつつ、幕が上がる。

結婚式場「ギヤラクシーホテル」の女子トイレ。背景にはトイレのド
アが五つほど並んでいる。上手奥にはおむつを替える台と掃除用の流
し。下手奥には掃除道具入れのロッカー。上手前面には化粧台。下手
のさらに奥には階段があり、非常口につながっている。

ウエディングドレスを着た若い女の子Aが、鏡に向かって化粧を直し
ている。妊娠しているらしく、お腹が大きい。(鏡の向きは、どちら

- 2 -

でも可。すなわち、観客に背中を向けて、本当に写る鏡に向かって化粧をする形と、鏡は枠だけにして、観客に向かって化粧をする形。(そこへ、もう一人、ウエディングドレスを着た同じくらいの年齢の女の子Bが飛び込んでくる。手にブーケを握りしめている。BはAを見て、一瞬ひるむ。

B えっ？

A ・・・？

B どうして？

A 何？

B どうして、トイレにそんな格好でいるの？

A は？

B だって、そんな。

A 何言ってるの？

B え。

A 自分は？

B (自分の格好を見て) あっ、ああ、そうですね。そうか、私もか。アハ、アハハハ、ハ…。…あ。

B、Aを気にしながら、一番下手のトイレの箱に飛び込む。しばらく

- 3 -

して水を流す音。さらに一回。A、ちらっとそっちを見る。さらにもう一回。A、さすがにそちらを見つめてしまう。B、ゆっくりと出てくる。

A 大丈夫？

B えっ？

A もしかして、…吐いちゃった？

B あ、(ちらっとトイレを振り返る) はい。ごめんなさい。

A いや別に謝ることないけど、ほんと大丈夫？

B はい、もう。

A あのー、あんたもそう？

言われて、B、Aのお腹が大きいことに気づき、じっと見つめる。

B ! いえ、私は。

A そう。

A、化粧を再開する。B、出て行こうとするが。

A (化粧を続けたまま) ねえ、もしかしてあんた、「神田様かんだ」にな

- 4 -

る人？

B え？

A だから、今日式挙げて「神田」って名字になるんじゃないの？

B どうして分かるんですか！

A ふっふっふ。

B じゃ、あなたも能力者？

A は？

B 人の心が読めるとか。

A 違うよ。テレパシーなんかなくなつて分かるの。

B じゃ・・・名探偵？

A この格好で？ サスペンスシリーズ「ウエディング刑事」^{デカ}？

B ウエディング、デカ？

ME「チャンチャンチャンチャー」に続いて、サスペンス風の音楽。

後ろの戸が三つ開いて、黒いスーツの人物が出てくる。

E (いきなり口を押さえて) うっ。(倒れる)

F キャーツ。

G こっ、これはトリカブト。

E (起き上がって) えっ、事件当日は式場が予約されていないかった？

- 5 -

F そうか！ この急行だけはあの駅に止まるんだ。

G ホテル山城館^{ヤマしろかん}。

E 平家の落人伝説^{おちうせ}。

F 山田紅葉^{こうよう}。

G 海の断崖絶壁。

三人、Bを取り囲み、

B・E・F・G (ポーズ) 何があっても、バージンロードは汚させ

ない！

A …ちよつと！ 何か周りにいるんだけど？ 何？

三人、もとの戸に入って消える。A、おいかけて開けるが、中には誰もいない。

A え、何何？ 目の錯覚？

B やっぱ、花嫁にデカって無理な設定じゃないかと・・・

A あんたが言ったんだよ！ …あのね、「鳳凰の間」^{ほうおう}であんたの先に式挙げんのがあたし。

- 6 -

B ああ、そういうこと！　じゃあ、あなたが「じょうじょう」

さん？

A たしかに「株式の上場」と同じ字だけど、あれで「じょうば」って読むの。

B へえ。

A お互い、かなり若い花嫁だよ。いくつ？

B 十七。

A おお、同じじゃん。

B あ、そうなんだ？

A 相手は？

B 三十五。

A ええつ、ほとんど二十違うじゃんか。

B うん、みんな、そう言って驚く。

A あ。・・・そっか。たしかに言われ飽きるわな。ごめん。

B ううん。あなたの相手は？

A ああ、二十歳、二十歳。ま、うちみたいに頼りないのより、いっそそのくらい年上の方がいいかもね。

B たしかに頼りがいは満点です。

A (少しシラケて) ああ、良かったね。じゃ、なんでこんなところで

挙式？

- 7 -

B こんなとこって？

A あんまり評判よくないらしいよ、このホテル。「ギヤラクシーホテル」って名前からしてうさんくさいと思わない？

B え？　メルヘンチックでいいじゃないですか。

A どこがあ？　もっと大きな問題は中身。かなり安普請らしいよ。

B ほんとですか？

A うん、耐震基準っての？　満たしてないって。ちよつと大きい地震来たたら一発ってうわさ。

B 知らなかった。

A 案外、あんたの花婿、ケチなんじゃないの？

B そんなことありません！　そんなこと言うなら、あなたのは？

A うちの・・・急いでだから、空いてるところがここしかなかったんだ。

B あ・・・。(思わず、Aのお腹を見る)

A なに？

B いえ、別に。

A いいよ、聞いても。

B あ。

A お腹のこと、聞きたくてうずうずしてる。

- 8 -

B いえ、あの、そんなわけじゃ。

A いいって。そんだけ遠慮がちなら、まあ話してもいいかなって。

B そんなもんな。

A もう、ここしばらくどんだけ周りの好奇心をかき立ててきたか！

特に遠慮のないババアが最悪！

B 遠慮がないって。

A 聞いてくれる？ もうね、見ず知らずのババアがさ、道ですれ違

いざまはつきりした声で、『あらあ、できちゃった？』

言うか、普通？

B ひど。

A ネットで調べるとね、こういう急ぎの式を挙げられると、大 - 9 -

都会には割とあるんだけどね。

B そうなんだ。

A 「おめでた婚」って言うんだってさ。結婚、出産、ダブルの幸せ。

B でも、最近そんなに抵抗ないんじゃない？

A 芸能人とは違うって。すごいよ、反響。

B 反響？

A 結婚前に妊娠したってだけで、『笑いものにしていい人間』って

ことになるのか？ ちょっと順序が違っただけで？

B …なるほど。

A いつの間にかそういう法律できてた？ あたしが知らずにいただ

け？ て、真剣に思ったよ。

B 大変だったね。

A ま、あたしも自分がこうなる前は、おんなじ感覚だったんだろう

けどさ。

B ……

A 思わない？ テレビとかでさ、オカマとできちゃった婚は、おお

っぱらに笑ってもいいって雰囲気があるのよ。人権人権ってあんなにうるさいのに。

なあ、確かに。

B ああ、確かに。

A ま、でも、いいよ。聞きたいこと聞いて。

B いえ、もう。

A いいって。妙な縁でここに二人いるんだからさ。それに、どうや

らあたしもしゃべりたいんだわ。

B そうなんですか？

A ほっといてほしいって、ずうううっと思ってるうちに、かなり溜

まってきたんだろうな。

B じゃあ・・・、相手の人は？

A えっとね。

ホワイトスーツの一目で新郎と分かる格好をした丸めがねの男C、ケ
ーキカットのナイフを持って駆け込んでくる。

C のりこーっ！

A・B、びっくりして見つめる中、トイレの戸を片っ端から開けてい
くC。

C のりこーっ、のりこ？ のりこ？ のりこ？ のりこーっ！！

C、下手の一番奥まで戸を開け、さらに掃除道具のロッカーから入っ
ているものを放り出し、最後にロッカーに頭を突っ込んでへたりこむ。

- 11 -

A どういうこと？

C 分かりません。お色直しの控え室からふらっと出ていったきり、
もう三十分も。

B そんな。

A マリッジブルーが、あり得ないタイミングで来たのかね。

C あ、あなた方も花嫁？

B そう。

C じゃあ、分かりませんか、のりこが行きそうな所。花嫁仲間とし
て。

B 別に花嫁は仲間じゃないから。

A でも…。

C はい？

A やっぱり、トイレ…かな？

C あ！ あ、そうですか。じゃあ、やっぱりお二人も？

B いや、別にあたしは。だって、え？ なんでトイレ？

A 学校で。

B 学校？

A (うなづく) 学校で、一人になりたかったらどこに行く？

B ？

A ほら、別に教室が嫌とか、全然ないんだけど、友達とダべってる

- 12 -

のもほんと楽しいんだけど、でもなんか…。

B なんかに？

A ほら、分かるじゃん、楽しくしてるの義務みたいになつてきて。

B 義務？

A 疲れちゃうじゃない？ で、一人になりたい時ってトイレ行く習慣になっちゃうみたいなの。

B そうなんだ。

A え？ みんなそうだと思うた。あんた、学校は？

B あ、行ってたけど…。

A そっか、そうだね。

C じゃ…、じゃあ、ここで待ってれば？

A え？

C そっかー。待たせてもらっていいですか？

B え、女子トイレだけ？

A 待たれてもなあ。

C ありがとうございます。

A 話聞けよ。

B 心当たりあるんですか。のりさん…でしたっけ。なんで？

C 分かりません。二人でこれからずっと、(涙がこみあげて) いろいろ楽しいことしようねって言ってたのに。

- 13 -

B いろいろって？

C (泣きながら) 映画とか、ビデオとか、DVDとか。

B それ、全部同じ。

A もっと夢語ってやれよ。

C いやもちろんほかにも。

B 何？

C アニメとか、漫画とか、特撮とか。

A 二次元から出て来いよ。

B のりこの気持ち分かる気がする。

C、泣き崩れて、ロッカーの裏に座り込む。A・B、途方に暮れる。

A、Cの前にしゃがんで、Cの頭をつつきながら、

A …これよりはマシかなあ。あでも、どっちもどっちかなあ。

B 何？

A あたしの相手。

B あ、そっか。どんな人？

A うーん、ここしばらくものすごく男らしかった。

B へえ。

A 悪い意味で。

- 14 -

- B 悪い？
- A もう、逃げる逃げる。
- B のりこさんみたいにな？
- A 違う。妊娠が分かったから。
- B ああ。
- A 初めが『えっ、本当にオレの子？』
- B ホントにそう言うんだ。
- A 安いドラマみたいでしょ。それから、産婦人科行くのはしづるわ、携番アドレス変えるわ、徹底的に『男らしい男』。
- B ああ、そっちの『男らしい』。
- A 隙あらば逃げよう。
- B よく結婚までこぎ着けたね。
- A うち、親父がものすつごく怖いのよ。
- B ・・・。
- A うちに連れてくまでは大変だったけど、親父の前に出たら、あとはもうひたすら、『ハイツ』『ハイツ』『ハイツ』。
- B なるほど。
- A 妊娠が分かかってから、今日でちょうど三ヶ月。
- B はやしい。
- A で、空いてたホテルがここってわけ。

- 15 -

- B へええ。でも、そういうのって、後々、愛情とか問題出てくるんじゃない？
- A 何、愛情って？
- B だって結婚生活。
- A 何、夢語ってんの？ お互い、これ着てるのは現実だよ？
- B きちっとこっちの一生責任とってもらうとこまでこぎ着けたんだから、それ以上の何を求めるっての？
- B でも、家庭の雰囲気とか。
- A はつきり言うとな、これであたしがイニシアチブとっていけるんじゃないかな。
- B イニシアチブ？
- A 立場が上ってことよ。
- B 立場が。
- A 何？ 大事なことでしょうが。
- B え？ でも、好きな人のためになんでもしてあげたいって…。
- A は？ あんた、まだそんなアツアツなわけ？
- B アツアツっていうか。
- A そんなんで結婚したら、家政婦代わりにこき使われるだけだつて。ずうつと下の立場だよ。
- B 上になりたい？

- 16 -

A 恋人にデート連れてってもらうのと違うのよ。好き勝手されても、いいことないって。

B そうかなあ。

A その点、うちは結婚式の準備から新生活の場所まで全部あたしが決めちゃった、みたいな？ これからもずっとこのパターンね。

自分の思い通りやらなきゃ負けだって。

B そんな考え方って…。

A え？ 違うの？

会話の終わり頃から、掃除のおばあさんD、上手から入ってきている。

D おや、どうしたね。

A あ、どうも。

D そんな格好で。

B いえ、ちよっと。

D 汚れるよ。せっかくキレイなのに。

D、首をひねりながらロッカーに近づくが、道具が散乱しているのを見て。

- 17 -

D あれ？

B 花嫁探した跡です。

D へ？

A いろいろあって。

Dは棒つきタワシを取り上げて、下手奥のさつきBが入った箱に入って掃除を始める。

A おばあさん困るだろ。片付けなよ。

C ううう。

A さっさとやって。

C、だらだらと道具を入れ始める。

A なんか、にぎやかになってきた。

B やつとトイレらしい人が来た感じだけど。

A うん。

B ああ、あなたは何でこんなところに？

A …控え室のフイんキがさあ。

B 雰囲気。

- 18 -

A : フィンキが最悪だったの！

B 雰囲気がねえ。

A けっこういい性格してんじゃない。

B 間違いは間違い。

C、道具を入れ終わり、ほとんどロッカーにはまり込んでぶつぶつ言いながら泣いている。

A もう！ うつとうしい！

A、Cをロッカーの中に突き飛ばして、戸を閉めてしまう。

B ええっ？

A ふん！

B 大丈夫？

A 誰も困らないって。

B うーん。ああ、それで「雰囲気」がどうしたって？

A もういい。

B えー。ガキっぽい。

A あんたに言われたくないよ！ 分かるでしょ、たいがい。

- 19 -

B 何が。

A このお腹。親戚が入れ替わり立ち替わり、部屋にくるたんびに。

B ああ。

A どのいつもこいつも、困ったような、半分笑ってるような、微妙な顔して。

B なるほどね。

A 絶対見返してやる。

下手の戸が開いて、Dが出て来てロッカーを開ける。無言で中を一瞬見つめ、そのまま倒れる。

A わああっ！

C、大あわてで転がりだしてくる。ナイフは持っていない。

A 大丈夫ですか！

B 変なことするから。

A どうしよう？

B 人工呼吸？

A あ、そうか。えと、ひーひーふー。

- 20 -

B それ違う！

A あ、つい…。

D、むっくり起きあがる。

D えーと…。

A ごめんなさい。

B どこか打ってませんか？

D ? ああつ、そこに箱詰めのハロルド・ロイドが！

A 誰？

B この人ですけど。

D へ？ ああつ、あんた年寄り殺す気か！

A ごめんなさい。

D あんたか？

A つい、入れちゃって。

D ロッカーに人を入れるなって、学校で習わなかったのか！

A え…。

B たぶん習ってない…。

D …はあ、ちよいと休ませてもらおうかね。

- 21 -

D、ロッカーからタワシを三本出して、器用に組んで椅子にして座る。

C え？

A 何それ？

D ハッハ。驚いたかね。

B どうなってんの？

D 亀の甲より年の功。

A へええ。

C、近づいてまじまじと見る。

A あ、泣きやんでる。

C、ロッカーからさらに三本出して、座ろうとして失敗を繰り返す始める。

A 今の男って、なんでこんなにガキっぽいんだろ？

D いやあ、今に始まったこっちゃないよ。

B そうなんですか？

D 昔っからそうさ。それをどう操るかが、女の腕の見せ所。

- 22 -

- A ほらほら、言った通りでしょ。
- D 何だい？
- A いや、結婚って、やっぱり主導権握らなきゃって話。
- D 主導権か。何、旦那をこきつかって？
- A まあ、そうかな。
- D うーん。操るってのは、そういうこつちやないんじゃないかなあ。
- B やっぱり、主導権は夫？
- D 主導権というのが、そもそもなあ…。
- A あ、つまり、あんたの所は、相手が主導権ってこと？
- B って言うか、出会う前は、私には人生がなかったから。
- A おい、今さらつとすごいこと言った？
- B すごいかな？ほんとにそれまでは一人だったけど。
- A 何それ？ そんな大恋愛？
- B うーん、初めはね、すごく優しくかったんだけど。
- A 初めは？
- B ある時期から、いきなり雰囲気が変わっちゃったっていうか。
- A フインキが？
- D ああ、良く聞く話だ。
- A そうかな？
- B なんか、厳しいっていうか、激しいっていうか…。

- 23 -

- A ああ、どこだっけ、韓国だったかな、極端にそうだったっていうけど。
- B 純粹に日本人だよ。うちは。…たぶん、あれに名前を書かれたんじゃないかと。
- A 名前？ あれって？
- ぎーっというSE。E、戸の一つを開けて出てくる。徐（おもむろ）に懐から黒いノートを取り出す。
- E （重々しく）Sノート！
- A Sノート？
- E 名前を書かれた者は、24時間以内にDSになってしまうという恐ろしいノート。
- E、言いつつ、Cを見ながら名前を書き、Cに椅子を与える。途端にCの様子が変貌する。椅子に片足をかけて、鞭で叩く格好。
- C オラオラオラ！ ピシッ、ピシッ。
- A そんな！
- F ふっふっふ。

- 24 -

S E。戸の一つから、Fが出てくる。

A 何？

F ご安心を。

F、徐に懐から黒いノートを取り出す。

F (重々しく) Mノート！

A Mノート？

M 名前を書かれると、どんなドSもドMになってしまうというノート。

- 25 -

F、Cを見ながら名前を書く。途端にCの様子が変貌する。

C イヤン。

F これで元通り。

A いや、元には戻ってないし。

G ハーツハツハツハ。

A 何！

S E。戸の一つからGが登場。Gも黒いノートを取り出す。

G (重々しく) Lノート！

A はあ？

G 名前を書かれると、誰でもLになってしまうというノート。

G、Cを見ながら名前を書く。途端に、Cが椅子に乗ってしゃがむ。

G、Cの口に棒付きキャンディをくわえさせる。指で携帯をつまんで話す。

C もしもし、ライトくんですか。

B このままでは！ 世の中がSかMかLばかりになってしまう！

D 服のサイズはたいがいそんなもんだけどね。

A 話はどこいった？

B でも、オラオラの後は、二人でおいしいもの食べて幸せタイム。

A おいしいもの？

B あまーいドーナツ。

E・F・G、お盆にいっぱい載せたドーナツを、それぞれBに捧げる。

- 26 -

B んー、どれにしよつかなー。取り放題、食べ放題。

A バイキングかよ。安上がりなこと。

B いいの！（三人に）ご苦労様。

A ；ちよつと待って。はつきりさせたいんだけどさ。

B ん？

A さつきから、この人たち、何？

B なんか出てきちやうのよ。

A 汗じゃないんだから。

B 小さい頃、遊び相手がいなかったからね。想像すると出てきてくれるの。

D ああ、わしの田舎にも、そういう人が昔いたよ。

A うそ？

D 理屈じゃないことは、世の中にいっぱいある。

A あるかなあ。あんた何者？

ゆっくりと、E・F・Gはドアの中に消える。

D どれ、仕事に戻るとするかね。

A 追究しないんだ。

- 27 -

D、ロッカーの中を探すが、目的の物が出てこない様子。

D ないか。

A 何がないんですか？

D いやあ、何かひどく詰まったようなんじゃないが。

A （ヒソヒソ）ちよつと、何吐いたの？

B ・・・。

D 別の階から持ってくるか。これ、あんたもいつまでも女子便所におってどうする。行くよ。

D、Cを呼ぶ。上手へと退場。C、Lっぽく走って、Dを追って退場。

A ふう。やつとうざい男が行ったか。

B 見つかるかな、のりこさん。

A さあ。（鏡を覗いて）もう！ また化粧落ちてる！

A、化粧を再開する。Bは、詰まったトイレを気にしている。

ややあって、上手から、お腹を抱えた女Hが駆け込んでくる。一番上手側の戸に飛び込む。

- 28 -

H ああああああああああつ！

やがて、流す音。ほっとした顔でH出てくる。

H …あ、失礼。

A いえ、別に。

B 大丈夫ですか。

H はあ、どうも前菜が古かった、のかな？

A 式場の？

B 食中毒？

H いえ、胃腸風邪かもしれないし。

A 文句言った方がいいですよ。

H でも、ほかの人平気みたいだし、大事な取引先の式なんです。

B あー。

A うちの料理も大丈夫かな。

H 憧れのホテルだったんだけどな。

B 憧れ。

A なんで、ここが？

H ちよっといい？ 廊下に出ると分かるんだけど。

- 29 -

三人、上手から出て、舞台上手前面に移動。そこにサス。ME。

H そこ、すぐ近くに線路通ってるでしょ。

A ああ。

B たしかに。

H 私ね。通勤電車で毎日あそこ通って、このホテル見上げてたわけ。

A あ、そういうこと。

H できたら、ここで式挙げたいなって。

A え？

H 「ギャラクシー・ホテル」って名前もメルヘンチックでいいなって。

B (Aをつついて勝ち誇った顔)

H でも、狙ってた人の式に同僚として出席するはめになっちゃった。

A あー、そうなんだ。

H あ、手。

H、入り口からトイレに戻る。二人ついていく。手を洗うSE。

H 彼、広末涼子のファンって言ってたから、かなり期待してたんだ

- 30 -

けどな。

A え、なんで？

H え？ ほら、似てるでしょ。

二人 ……。

H、確認するようにポーズ。

A …小振りの、静ちゃん？

B おおつ、なるほど！

H ばきゅん。おいつ！

A 自覚あるんじゃない。

H そっちのすっごい素直な納得、むかつくわあ。

B あたし？

H もう！ 失礼しちゃう！

H、ずかずかと上手へ退場。

A あれだけ元気なら大丈夫か。

B そだね。

A そう言えば、あんたは、なんでここにいるの？

- 31 -

B ん？ ああ、ちよつと野暮用。

A 野暮用で、こんなところ来る？ そんな格好で。

B 自分だつて、そんな格好じゃん。あ、それより、大丈夫かな？

料理とか。

A だから、評判悪いって言ったでしょ。

B うーん。

A そっちは、何コースにした？

B コース？

A 料理のランク。

B ああ、何だっけ？

A そっか、それも旦那任せ。

B …まあ。

A コースの名前からしてうさんくさいのよ。小惑星コース、流れ星

コース…。

B へえ。ギャラクシーだけに。

A うちが最高のランクにしたけど。

B はあ。

A ブラックホールコース。でも大しておいしくないんだわ、これが。

B そうなの？

A 盛り上がらないだろうなあ。料理まずいと。

- 32 -

- B じゃあ、なんか盛り上がることにする？
- A え？
- B せっかく一緒に式場で式挙げるんだから、なんかやらない？
- A どういうことよ。
- B あなたの式にゲストで出るの。
- A この格好で？ お互いの式についてこと？
- B 「どうも、この後で式挙げる神田です。遊びに来ちゃいましたあ。」
- A 花嫁が二人になるぞ。
- B 面白いじゃない。ついでに二人でなんか余興よきよう。
- A すごいこと考えるな。
- B やろ。
- A って、何やる？
- B 二人だから…。
- A やっぱ、漫才でしょ。お笑いブーム。
- B うわあ、この格好二人の漫才。
- A ドン引きか？ バカ受けか？ よし、やってみよう！
- ME。二人、上下に分かれて一度引っ込み、手を自分で叩きながら中腰で出てくる。

- 33 -

- A はい、どうもお。私は花嫁。
- B 私も花嫁。
- A 二人合わせて。
- A・B 「ウエディング・ウエディング」です。
- A いやあ、いよいよ挙式やねえ。
- B まあまあ、がんばってかないかんとおもいますけども。
- A 新しい門出やからね。
- B はい。
- A めでたい席にめでたい二人。
- B うんうん。
- A 今日は二人で、「ウエディング…」（続きを相手に期待）
- B …え、なんで途中で切んの？
- A えー？ま、ええわ。せっかくやから、何か楽しいことやりたいね。
- B やりたいねえ。
- A 何がええかね。
- B まず、基本としては、歌やね。
- A お、デュエットやね。
- B 女二人のデュエットと言えば。
- A ほお、デュエットと言えば。
- B ザ・ピーナッツ。

- 34 -

- A 古いなあ。
- A・B モスラクヤ モスラク ドウガカタクヤン インドムク。
- B よりによって、この歌かいな。
- A なんか出て来そうな歌やねえ。
- B 出てくるがな。
- A 何が？
- B 赤んぼ、赤んぼ。
- A ほつといて！ 歌嫌や。
- B ほなら、手品なんかどうかいな。
- A すごいのやりはる人いてるもんねえ、最近。
- B このヒラヒラの格好やからね。
- A ネタ隠し放題やがな。
- B 鳩出したり。
- A 花出したり。(続きを相手に期待)
- B ；旗出したり。
- A えー？
- B え？ じゃあ、金魚？
- A いやいやいや。
- B あ、赤んぼ？
- A 生むかい！ さっさと式進めよ。

- 35 -

- B まあ、一番の見せ場は、ケーキ入刀やね。
- A 式場の人が横についてね。
- B ああ、そうそう。
- A じゃ、ちよつと呼んで。
- B え？
- A スタッフ呼んでて。
- B (分かったという顔をし、息吸って) スタッフさん。
- A えー？
- B じゃ、スタッフくん？ あ、スタッフちゃん！
- A 何で子どもやねん。ナイフ渡してもらって、二人で一緒に持つて。
- B 感動的な音楽流れて。
- A カメラ目線で笑顔作って。
- B 「それでは、お二人の初めての共同作業です。」あ、もう済んでるがな。
- A ひつこいなあ。
- B で、感動的なのが、両親への手紙。
- A ああ、もらい泣きする人続出やで。
- B 「お父さん、お母さん、美奈子は今日結婚します。」
- A 来た来た。
- B 「こうしてここに立つと、これまでの十七年間で走馬燈のように

- 36 -

思い出されます。」

A いろんな思い出あるねえ。

B 「楽しかったピクニック。」

A ええねえ。

B 「お弁当を食べた公衆トイレの前。」

A なんで？

B 「くさいなあと思っていたら、臭うのは食べていたおにぎりでした。」

A 腐つとるがな。

B 「元気よくトイレに走るお父さん。」

A 元気なんとちやう！

B 「次の日もみんなで仲良くピクニック。」

A まだ行くの？

B 「行き先は病院。」

A (ツツコミかけるが、素の声で) あっ。

B 何？

A もう一回、何かボケて。

B エ？ …このホテルって、てっこんキンクリート？

A あっ、また。

B 何何？

- 37 -

A 『鉄筋やがなっ』って突っ込み入れてる。

B え。

A この子が。

B え、えええええっ！

A ここ触つてもう一回ボケて。

B それでは、皆様、キャンドルサービスです。新郎新婦が、皆様の

家に火を付けて回ります。あっ、蹴った！ 今のタイミング。

A (手でお腹を蹴る形を示しながら) 放火ちやうわ！って感じ。

B すごい！ 将来芸人？

A 続いててくれ、お笑いブーム！

B だといね。

A …さてと、さすがに戻るか、気が重いけど。

B ……。

A 心配してない？ 頼りがいのある旦那が。

B うん。

上手から、またH駆け込んでくる。

H あああああああああっ！

- 38 -

また、さっきのトイレに駆け込む。流す音。

A また？

H ふう。

B ぶりがえしました？

H いやあ、今度はステーキのレアが。

A ほんと、大丈夫か、ここ。

D、手にトイレ掃除の道具（スッポン）を持って戻ってくる。なぜか、

C もついでくる。

B あ。

A なんでまだいるの？

D 離れたがらないんだよ。

B また落ち込んでる。

A のりこさん、逃げて正解。

H のりこさん？

B ファイアンセが控え室からいなくなっちゃったって。

H ええっ？

C、ロッカーに直行して、自ら戸を閉める。

A 自分で入ったよ。

B 案外、居心地いいんだ。

H え、ここだけ男性用？

D も、ほっといてやりな。

D、下手の戸に入り、掃除にかかる。

H 変なの。あ、変って言えば、なんか、警察うろろしてるんだけど。

A ええっ？

B ほんと？

H や、でも警備員だったかも。なんせ、全速力で駆け抜けてきたから。

A ふーん。何だろ。

B ……さあ。

H そういえば、なんで二人ともそんな格好？

A あー、まあ。

B いろいろあって。

- H ふーん、それにあんた…(お腹を見つめ、ちょっとニヤツとする)
- A ……
- H …戻らなきや。
- A 言いたいことあんなら、言えば。
- H いやー、別に。
- A 別にあるでしょ。
- B ちよつと、もういいから。
- A あたしの問題。口出さないで。
- B でも。
- H 聞きたいんなら言うわよ。出来ちゃった婚でしょ！ 珍しくもない。
- B おめでた婚です！
- H 何、勝ち誇って言うてんの？
- A 文句ある？
- H ないって。
- A 好きな人の式に客で来てるような人に、何にも言われる筋ない！
- B ちよつと！
- H 待つてよ、なんでそんなこと言われなきやなんないわけ？
- D (腰を叩きながら) あー……。

- 41 -

- D、極端に大きな声を出しながら出てくるので、思わずみんなそつちを見る。
- D なんの騒ぎかね？
- A 別に。
- H 別にじゃないでしょ！ 私のこと、好きな人の式に出てる、みじめで不幸な女つて。
- B そこまで言っないって。
- A そつちこそ、出来ちゃつて、不幸な結婚する女つて。
- B それも言っないって。
- A 目で言っただ。
- B 目から声出ないって！
- D ああ、ああ。まあ、こんな式場でけんかなんぞ、せんがええ。
- A だつて。
- D 人生、そんなに思ってるほど差があるもんじゃないよ。
- H ええ？
- A そうかな。
- D わしは七十近くなつて、こんなとこで掃除して、人様の詰まらせたまんをとつとるが、これは、不幸かね？ みじめかね？
- A ……いえ。

- 42 -

D が、幸福とも思わんじやろ。でもな、わしは、不幸でも幸福でもない。ただ、生きとる。結局大事なのはそれだけじやよ。

A それはちよつと救いがないんじや…。

D そうは思わんなあ。そのお腹の子が生まれてみりや分かる。とにかく、あんたも子供も生きてくことよりほかは、まあ、枝葉のこ
とじやよ。

A 生きてくこと…。

D さて、まだ詰まりが取れん。強力なのを持ってこんことには。

D、上手に去りかける。Hも気まずそうに後に続く。

B あの…、(ロッカーを開けて) この人は？

D わしの持ちもんじやない。

A たしかに。

D、去る。A、ロッカーの戸の中に話しかける。

A 聞いてた？ 幸福も不幸もないんだってよ。ほんとかな。

のっそりとの出てきて、下手にうずくまって座る。その傍らにAが立

- 43 -

つ。

A それでも私は…、しあわせになりたい。

B あの人が言ってた。

A え？

B 私の。

A 結婚相手？

B うん。世界中がしあわせにならない限り、一人がしあわせになる
ことはないって。

A 何言ってるの？ あんたは確実に幸福の絶頂でしょうが。

B ん？ …そだね。

A ねえ、どんな人よ、ご立派なこと言う二十歳上のフィアンセは？

B 私の、家庭教師だった人。

A え？

B 私に人生を作ってくれた人。

ME。中央にサス当たる。戸から、E・F・G出てくる。G、帽子を
取ると長い髪。腰掛けて、携帯をかけ始める。E、その足下に籠を置
く。AとB、それを覗く。ME、ポリウム下がって。

- 44 -

A この子は？

B あたし。その人がお母さん。

A さっきから泣いてるみたいなんだけど。

B ネグレクトって言うんだって。育児放棄。

A 育てないってこと？

B そう。死ぬ寸前で発見されて、保護された。

ME、ポリウム上がって、EとF、籠を持って同じドアの中に去る。

同時に、Gは別のドアに去る。ドアが閉まると同時にMEストップ。

ME変わる。すぐに、少女の格好をしたGを前後に挟んで、それぞれ椅子を持ったEとFが一つのドアから出てくる。ME、ポリウム下がって。

A ここは？

B 保護施設。この子が私。

MEポリウム上がって、G、腰掛ける。向き合ってEが座る。EがGに視線を合わせようとするが、決して合わせない。ME、ポリウム下がって。

E こんにちは。

G ……

E 名前を覚えてくれるかな。

G ……

E ねえ、お姉さんに名前を…。(手に触れる)

G うるせーっ！ さわんな！ ばか！ ぶす！ はげ！

E !

F 無理だと思うよ。

E 無理？

F ネグレクトされてしまうとね。正常な人間関係を築くことができなくなってしまうものの。

E そんな。心をこめて接すればなんとか。

F じっくり付き合えば、あなたを頼るようにはなるわ。でも、今度は今と真逆よ。

E 真逆？

F 四六時中、あなたにしがみついて「いかないでーっ」って離れなくなる。そうさせた時に、あなたは面倒が見切れる？

E それは…。

ME、ポリウム上がって、すぐに消える。同時にサス消える。ゆっ

くり溶明。

B こうして私はほっとかれるようになった。

A そんな。

B 小学生に通うはずの時期、私はこの人たちとだけ過ごしてきたの。

A この人たち？

B 三人の黒い服の人たち。

A いつから？

B 初めは気配だけだった。それがだんだん輪郭がはつきりしてきて。

A おばあさんが、昔からいるって言ってたけど。

B たぶんね。私に近づく者は、この人たちがはねつけてくれた。気

味悪がって、誰も寄ってこなくなった。

A . . .

B そんな毎日が突然変わったの。中学になる時期だった。あの人が現れた。

新たなME。サス新たに点く。客席にやや背を向けてBが腰掛ける。顔が見えない。Fが近づいてくる。ME、ボリューム下がって。

F こんにちは。

B . . .

F 座っていいかな。

B . . .

F (座って) 名前を教えてもらっていいかな。

B . . .

F ねえ。

F、Bに触れようとする。左右からEとGが腕をつかむ。

F え？ 君たちはどこから？

E さわるな。

F え？

E・G 私にさわるな。

F これは…、もしかして君の力？

E・G 私にさわるな。

F 分かった。触らない。君がいいと言う以外は絶対に触らない。約束するから、ここにいさせて。

E 消えろ。

F いやだ。

G 何しに来た？

- F 僕は君の家庭教師だ。
- E (二人、手を離して) 家庭教師?
- G なんだ、それは。
- E そんなものは要らない。
- G 消えろ。
- F 人として大事なことを教えたいんだ。
- E そんなものは要らない。
- G 消えろ。
- F 頼むから、話をしよう。
- E いやだ。
- F 話したいんだ。
- G うそをつけ。
- F うそじゃない。
- E 前にそんなことを言った奴がいた。
- G 一生懸命話をして。
- E ずうっと一緒にいてほしいと言ったら。
- G 逃げていった。
- F 僕は逃げない。
- E うそをつけ。
- F うそじゃない。

- 49 -

- E 信じられない。
- F 信じてくれ。
- G どうして話したいんだ。
- F 君が…、大事な人だから。
- B 大事?
- F (はっとしてBの目をのぞき込む) …そう、君はこの世でたった一人の大事な人だ。
- E うそをつけ。
- G ずうっとずうっと、捨てておかれた。
- E ずうっとずうっと、話なんかしなかった。
- E・G 私はこの世に存在していない人間だ。
- F そんなことはない。僕と話せば、それが分かる。
- E 話したら逃げていく。
- G すぐに私が嫌になる。
- F そんなことはない。
- E・G うそだ!
- F うそじゃない。毎日君に会いに来る。ずうっと死ぬまで会いに来る。
- B …ほんと?
- F ほんとだ。僕の一生を君にやる。

- 50 -

B (振り向いて) これが、あの人との出会い。

A、Bに脇に進み出る。

A すごいね。僕の一生を君にやるって。

B 本当に、あの人は一生を私にくれたの。

A どういうこと？

B 絶対に毎日、保護施設に来て、来たら、帰るまで私のそばを

決して離れなかった。

A そんなにあんたが好きだった？

B まさか。子どもだよ。べったり甘えることと、罵詈雑言を浴びせることしかできない子ども。仕事に誠実だっただけ。

A 家庭教師って、何を？

B 私を人間にする仕事。

A 人間？

突然、上手からHが走り込んでくる。腹を押さえている。

H メロンがああああああつ。

A 食べなきゃいいのに。

H、さっきと同じドアから入る。水を流す音。この間に、E・F・Gはドアに消える。H出てくる。

H あー。

B 帰って病院行ったら？

H あれ、あんたたち、まだいるの？

A まあね、えーっと、さっきは…。

H あ、あたしも言っちゃったから。

A すみません。

H こっちもごめん。あ、そうだ。

B 何？

H ちよつと汚しちゃったからさ。あのおばあちゃんに悪いし。

H、ロッカーを開ける。中を見つめる。

A ああつ、そうか。入ったまんまだ。

B 大丈夫？

H あのね。

A ん？

H かなりやばい。

H、いきなり振り返って、上手へと逃げていく。

A 何？

B 何だろ？

二人が、ロッカーの正面に立ち、中を見て、息を呑む。中から、Cが
ぱったりと倒れそうになって出てくる。

二人は、あわてて体を支える。Cは上着を脱いでおり、シャツが真っ
赤に染まっている。

C のりこ…。

A ちよつと、どうしよ。

B 止血止血！

ロッカー内の雑巾を裂いて、腕を縛りながら。

A もう！ ちよつとあんた、あのおばあさんの話聞いてた？

B 動脈どこかな？

- 53 -

A 幸福も不幸もそんなに差はないって言ったでしょ！

B しびれてくるかもしれないけど。

C のりこ…。

A もう！ こんなんだから逃げられるんじゃないか！

E・F・G、ドアから登場。Gは、トイレットペーパーでCの手をぐ
るぐる巻きにする。E・F、担架を持っている。三人、Cを乗っけて、
上手に運び去る。

A 便利な人たち。

B 大丈夫かな。

A もともとそう切れるもんじゃないからね。

B え？

A これだよ。

A、ロッカーの中から、ケーキカット用のナイフを拾い上げる。

A これで切るなよなー。

B 確かに。

- 54 -

E・F・G、疲れた様子で上手から帰ってくる。

B お疲れ様。

A 疲れるんだ。人間っぽい。あ、人間なのか？

B どうかな。

A そういえば、あんたを人間にするって？

B ……人のために生きていない者は、人間じゃない。

A ……あたしのことか？

B 何言ってるの。うざい男をあんなに必死で助けといて。

A ま、緊急だったから。

A あの人の、繰り返し繰り返し、大切なお話をしてくれた。

A へえ。

B サソリの話って、知ってる？

A サソリ？ サソリ座のサソリ？ あの毒のある？

B そう、そのサソリ。

ME。E・F・G、慌てて立ちあがり、トイレの中に入っていく。Bの語っている間、ME。

A なんかあわてるけど。

B むかしのバルドラの野原に一ぴきの蠍がいて、小さな虫やなんか殺して食べて生きていたんですって。するとある日いたちに見つかって食べられそうになったんですって。

E・F・G、トイレから、それぞれサソリの人形、イタチの人形、ロップを持って出てきて、人形劇を始める。

B さそりは一生懸命逃げて逃げたけど、とうとういたちに押さえられそうになったわ。そのとき、いきなり前に井戸があつて、その中に落ちてしまったわ。もうどうしてもあがられないで、さそりは溺れ始めたのよ。そのとき、さそりはこう言ってお祈りしたというの。

ああ、わたしは今までいくつのものの命をとったか分からない。そして、その私が今度いたちにとられようとした時はあんなに一生懸命逃げた。それでもとうとうこんなになってしまった。ああ、何にもあてにならない。どうしてわたしはわたしのからだを黙っていたちにくれてやらなかったろう。そしたらいたちも一日生き延びたろうに。どうか神様、私の心をご覧下さい。こんなにむなしく命を捨てず、どうかこの次にはまことみんなの幸いのために私の体をお使い下さい。って言ったというの。そしたら、いつ

か蠍は自分の体が真つ赤な美しい日になって燃えて夜の闇を照らしているのを見たって。今でも燃えてるってお父さんおっしゃったわ。ほんとうにあの火、それだわ。

A : 何、それ？

B 「銀河鉄道の夜」

A ?

B 知らない？

A 知らないとダメ？

B この世で一番美しいお話だって、あの人が。

A ふーん。今のが？

B 今のはほんの一部。二人の少年が銀河鉄道に乗って旅をするの。

私、出てくる人が目に見えるくらいに何度も読んだ。

A この人たちみたいに？

B ちよつと違うけど。こんな感じの帽子を被って、汚れたコートを着た鳥を捕るおじさんや、ずぶぬれの小さな姉と弟、その家庭教師や、真つ黒なマントを着てめがねをかけたブルカニロ博士や…。

A 要するに、それってどんな話なの？

B 本当の幸いって何かっていう話。

A 本当の幸い。

B 一人の少年は、友達を救うために命を捨てるの。

A それが本当の幸い？

B 分からない。でも、あの人は、私にそうしてくれたと思う。

A 命を捨てて？

B っていうか、ずうつと一緒にいてくれて、出会ってからの人生全部を、私のために使ってくれた。

A ずうつと二人きりで？

B ううん。あの人にいろいろ教えてもらって、高校に入れたの。信じられないよ。自分に友達がいるなんて。こんなふうには、会ったばかりの人とも話せるなんて。

A ふーん。

B だから、私はあの人に何でもしてあげるし、何をされてもいい。

A え？

上手から、D登場。掃除機の先に、スッポンが付いたものを運んでくる。E・F・G、駆け寄って助ける。

D ああ、ありがとう。今日は、変な人がいっぱいいる日だね。

A それ…。

D しつこい詰まりがね、これできつと取れるよ。

D、さきほどのドアに入って、作業を始める。

A さっきの、気になるんだけど。

B : 高校に行き始めてね、すごく喜んでくれたんだけど、友達ができて、遊びに行ったりできるようになったら…。

A あ、もしかして。

B うん。

A 嫉妬？

B っていうか…。

A、はっとして、Bの体を調べる。このあたりから不安なME、聞こえない程度に入る。徐々に大きくなっていく。

A 何このあざ？

B ……。

A 暴力ふるうんだ。

B (うなづく)

A 最低！

B そんなことない。後ですごく謝ってくれるし、すごく優しくなるし。

- 59 -

A ドーナツ食べて？ あ、ドーナツバイキングって、略して「DV」！

何、笑えないシヤレ！

B 漫才には使えないね。

A そういう問題じゃなくて！なんでそんな奴と結婚？

B 人生をくれた人には、人生をあげなきゃって。

A そうやって洗脳されただけじゃないの？

B ううん。

A そうだって。

B 違う。あの人は結婚してくれなんて言わなかった。

A え？なんであなたの方から？

B 病気だったの。

A は？

B あの人、余命三ヶ月って。

A 癌？

B (うなづく) はっきりと、私もあの人に人生をあげたくて。

A 短い新婚生活になるね。

B …もう終わったの。

A え？

B さっきの警察、たぶん私を捜してる。

A どういうこと？

- 60 -

B あの人が私に望んだのは、結婚じゃなかったの。人間らしくいる内に、私の手で人生を終わらせてあげること。

A ええっ？

ME、ポリウム跳ね上がる。ぶつと切れると同時に、突然、トイレのドアが開いて、Dが出てくる。手には、血にまみれた花嫁の手袋が握られている。

D これ…。

手袋を見つめる二人。

- 61 -

A あんた…。

B あの人のためなら、何でもしてあげる。

突然、あたりをとどろかす大音響。二人の立つ場所が大きく揺れる。

二人の悲鳴。

一瞬にして暗転。ゆっくり明るくなると、二人倒れている。Aが先に気が付く。しばらく何が起こったか分からず、周りを見回しているが、

Bに気づいて、這って近づく。

A あんた！ 大丈夫？

B (頭を振りながら、気が付く)

A 怪我は？

B あ、ああ。(やっと相手が誰かに気づいて) 何があったの？

A さあ、地震かな。

B やっぱり安普請だったんだ。

A どうかな。それより、あんた、怪我は？

B 大丈夫。

A 逃げるよ。

B …。

B、咳き込み始める。

A (口を押さえて) 煙？

B (咳き込みながら) 火事？

二人、慌てて上手からトイレの外に出る。窓から見下ろして、

A ああっ！

- 62 -

B 何あれ？

A 電車がなんでホテルに突っ込んでんの？

B ばらばら倒れてるの、人間？

A やだっ！

再び、大音響がする。二人、がくと揺れる。

A これ、ちょっとやばくない？

B ひどい崩れ方してる。

A やっぱりだめだ、こり。

いきなりトイレの奥の方からドンドンと戸を叩く音がする。二人、顔を見合わせて気付く。

A・B おばあさん！

AとB、トイレの中に戻り、ドアを開ける。(可能なら、開けると同時に、中から風が強烈に吹いて、ドレスがなびくという効果がつけた)

- 63 -

A あっ！

B 壁が崩れてる！

A 大丈夫？

B つかまって！

中に倒れているD。体が半分出ているが、いきなり、ずるずると中に入ってしまう。

A あ！

B 落ちる！

A・B、Dの手をつかむ。

A しっかり！

B 今、ひっぱり上げますから。

D いいよ、もう。火が来たらおしまいだから。とにかく逃げな。

A 何言ってるの！

D あんたらこそ、何言ってるの。結婚式で死んじゃダメだろ。

A 一緒に逃げるの！

B なんかが上がって来ない。

- 64 -

A ひっかかっているのかなあ。

D 無理だよ、もう。悪かったね、呼んだりして。(気を失う)

A 頑張ってる！

B :ここ、しっかり持ってて。

A どうするの？

B あっちから降りて、下から押し上げる。

A ちよつと、崩れてるんだよ。

B お願ひ！

B、非常口の階段に駆け上がる。

A 待って！

B タイミング間違えないで。ひっかかりが外れたら、一気に引っぱって。

A いや。

B 大丈夫。私はしあわせ。また、あの人と一緒になれる。

A そんな。ねえ、さっきの黒い人たちに頼めばいいじゃん。

B だめ。自分でやらなきゃ。

A どうして？

B あの人は、私が一緒に死ぬことは許してくれなかった。逃げろっ

て。逃げて、サソリになれって。

A サソリ？

B 誰かのために命を使えって。それが人間だって。

A なんか間違ってるよ、絶対。暴力ふるう奴が言うこと？

B ううん。これが私の幸福。

A そんな馬鹿な。

B (ブーケを投げる格好) 受け取って。

A 待って！

B 大丈夫だから。幸福も不幸もそんなに違いはないんだから。

A でも、生きてなきゃ！

B しあわせになる。お互いに。

BはブーケをAに投げる。受け取ったのを確認して、Bは飛び降りる。

A だめっ！

A、目線で、Bの動きを追う。Dの背後まで来た様子。

B いい？ 押し上げるよ。

A 分かった。気をつけて。

B セーのっ。

A えいつ。あ、上がった。さ、あんたもつかまって。あ！ だめっ、いやあああつ！

A、トイレの奥に身を乗り出して、落下していくBをなんとかつかもうとしている。ME、ぶつっと切れる。同時に暗転。ゆっくり中央のサスが暗く点き、中にAを照らし出す。脇に、Dがゆっくり呼吸をしている。

Aはブーケを取り上げると、中から、「銀河鉄道の夜」の文庫本が落ちる。拾い上げ、開いて1ページ目を読み始める。

- 67 -

A 「では皆さんは、そういうふうには川だと言われたり、乳の流れたあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものが本当は何かご承知ですか。」先生は、黒板に吊した大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶつた銀河帯のようなどころを指しながら、みんなに問いをかけました。…

ME。やがて、ドアから光が吹き出す。それぞれのドアから、E・F・Gの三人と、「銀河鉄道の夜」の登場人物、(鳥取り・牧師と姉弟・など)が、それぞれの登場場面を暗唱しながら、ゆっくりと出てく

る。Dも、何かの扮装に変わる。そして、Aの周囲をゆっくりと囲む。

A しあわせに…、ほんとうのしあわせに、なりたい。でも、ほんとうのしあわせって何なの？ ねえ、分からないよ。…あ。

A、お腹に何かを感じて押さえる。それを囲む登場人物たち、いたわるように、Aを中心に固まる。何かが生まれるのを待つ卵のように見える。ME高まる。Aと登場人物たち、正面上を見上げる。幕。

- 68 -